

## 「小湊小学校の十五夜綱かつぎ伝承の取組」

### 1 学校名

奄美市立小湊小学校

### 2 学年・人数

1～6年生（計12人）

### 3 日時・場所

#### （1）練習の日時・場所

9月7日（日） 小湊集落中央広場

#### （2）発表の日時・場所

9月8日（月） 小湊集落中央広場～小湊海岸

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

#### （1）名称

十五夜綱かつぎ（じゅうごやつなかつぎ）

#### （2）由来

十五夜の綱かつぎは，集落内の厄払いをする子ども会の行事である。綱かつぎの前日には，集落の中心にあるマーの広場で子どもたちや保護者，地域の方が一緒に左綱を作って，綱は左巻きにしてその上に十字の藁束を載せておく。当日の夕暮れ時，中学生が鳴らす鉦とホラ貝に合わせて，「十五夜どー，十五夜どー。」と大声を上げながら地域を練り歩く。集落の出入り口では十字にした藁束を置いて回り，浜に下ってその綱で囲った土俵で相撲を奉納する。その後，左巻きにした綱に火をつけて中学生が沖へ流す。

#### （3）構成等

以前は男の子が2グループに分かれて行っていたが，子どもの減少に伴って一時は中断した期間があった。現在は，女の子も加わり復活している。

### 5 保存会や地域との連携の具体

綱かつぎに使う藁を他の地区から購入していたことから，学校の教育課程「総合的な学習の時間」に「稲作活動」を取り入れ，地域行事の「綱かつぎ」と関連付けた。借地の開墾は，地域住民に指導をもらいながら保護者が中心になって取り組んだ。地域住民に稲作活動の指導員として，苗床作りから田植え，草取り，稲刈り，脱穀まで指導をもらっている。採れた藁を使って子ども会で綱を作るときにも，稲作指導員を中心に地域住民が協力しながら行

っている。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

就学前の幼児をもつ家庭にも呼びかけて親子で参加してもらっている。そうすることにより、学校の教育活動に関心をもたせることにつながっている。

また、小学校を卒業した子どもの保護者が協力員として学校教育活動や子ども会活動に参加して伝承を継続している。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



綱作りの様子



綱作りの様子



綱かつぎの謂れ  
について説明を  
聞く様子



綱かつぎの様子

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

参加児童： 稲作活動は暑い中での作業が多く大変だけど、綱を作って綱かつぎをす  
るときは、今年も自分たちで育てた藁で作れてうれしくなります。みんな  
で大きな声を出しながら練り歩いて集落の厄払いができたので、  
すっきり  
しました。中学生のお兄ちゃんたちは、カッコいいなあと思いました。

保護者： 子どもたちが稲作活動を通して採れた藁が綱になり、集落の厄

払いがで  
きることに感謝します。稲作活動は、保護者だけでは難しく、  
指導してく  
ださる地域の先輩方のおかげです。今後も保護者として協力し  
ていきたい  
です。

保 存 会： 私が子どもの頃は 110 人程いたのですが、子どもたちの数が随  
分減って  
きています。子ども会で伝統行事に参加することで多くの先輩  
から学びな  
がら集落のまとまりを感じることができました。高校卒業後に  
島を離れて  
も綱かつぎなどシマ（小湊）の伝統行事を忘れずにいてほしい  
です。

教 員 等： 学校の教育活動と地域の伝統行事がつながり、とても意義があ  
ると思います。極小規模校のために、保護者や地域の方々の協力が  
大きな力になります。子どもたちが、中・高校生や青年、高齢  
者など幅広い世代との交流を通してシマ（小湊）のよさを体感で  
きています。綱かつぎは、地域ぐるみで子どもを育てるすばらし  
い活動の一つだと感じました。